

# 来週の「売り物記事」はこれ



2020年4月3日号 毎日新聞東京本社 D・クリエーションセンター

新型コロナに負けない！「最強」の体調管理術 大谷義夫医師に聞く

夕刊特集ワイド 7日（火）



新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。ワクチンも治療薬もないこの未知なる病原体から「身を守る」には、どうすればいいのでしょうか。テレビの情報番組でもわかりやすい解説でおなじみの「絶対に休めない医師がやっている最強の体調管理」の著書もある「池袋大谷クリニック」（東京都豊島区）院長の大谷義夫さん（56）に、その極意を聞きます。

異変のシグナル・化学物質過敏症

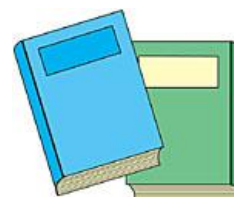
くらしナビ面 7日（火）

身近な環境の調和が崩れる原因について、人体や自然が発する「シグナル」を手がかりに記者が迫る連載「異変のシグナル」を今月から随時掲載していきます。初回は、柔軟剤や合成洗剤などに含まれる微量の化学物質が原因で、頭痛や吐き気などの症状に悩まされる「化学物質過敏症」の原因と対策について探ります。

本屋大賞発表

新総合面 8日（水）

2020年本屋大賞（同賞実行委員会主催）が7日、発表されます。本屋大賞は04年、出版不況の中で書店員が売りたい本を選ぶ賞として創設されました。19年は瀬尾まいこさんの「そして、バトンは渡された」（文芸春秋）が選ばれました。受賞作は直木賞や芥川賞に選ばれた作品よりも売り上げが上回ることもあります。今年の受賞作にも注目が集まります。



感染症と闘う・新型コロナ

くらしナビ面 8日（水）

病原体が体に侵入し、ときに命を脅かす感染症。ひとたび広がれば、都市は封鎖され、経済活動を停滞させ、影響は甚大です。新型コロナウイルスは、昨年末の初報告から3カ月で世界の感染者数は100万人、死者5万人にそれぞれ達し、感染症の驚異を私たちに再認識させました。無数にある細菌やウイルス。新連載「感染症と闘う」では、その実態に迫ります。

## #KuToo への賛同企業が続々

くらしナビ面 10日(金)



靴と苦痛をかけた「#KuToo」を合い言葉に、女性たちがツイッター上でヒールやパンプスの着用義務をなくそうと声を上げています。これを受けて日本航空は1日から女性客室乗務員の服装規定を変更。機能性や安全性より「女性らしさ」を重視する職場の慣例を変える動きが広がっています。

## 論点 男性の育休

オピニオン面 10日(金)

「閑僚を辞めてから取得しろ」「いや、閑僚が取ることに意味がある」。小泉進次郎環境相の「育休」宣言は、さまざまな議論を呼びました。男性の育児休業の取得率について、政府は「2020年度までに13%」という目標を掲げますが、現実には6%にすぎません。なぜ浸透しないのでしょうか。男性の育休が家庭や職場、そして社会にもたらす効果について考えます。



## 「カスタマイズ就業」広がる

くらしナビ面 11日(土)

就職を希望する障害者の能力や強みを生かそうと、企業側が労働環境や仕事内容を障害者に合わせる「カスタマイズ就業」が注目を浴びています。米国で始まった試みで、働きたい障害者と、法律で雇用を義務づけられた障害者を戦力としたい企業によるウィンウィンの取り組みとして日本でも広がりつつあります。

## パラリンピック支援の母娘

1面・ストーリー一面 12日(日)



NPO「アジアの障害者活動を支援する会」(ADDP)の前島富子会長と娘の中村由希事務局長は長年、アジア最貧国の一つ、ラオスからパラリンピックを目指す若者を支援しています。不発弾の被害で視力を失ったゴールボールの女子選手や、来年開催予定の東京大会出場が現実味を帯びる陸上選手らに寄り添い、共に道を切り開いてきた母娘の足跡をたどります。

※ 都合によっては掲載日や内容を変更することがあります。